

琉球大学学術リポジトリ

「沖縄の大学英語教育における英語母語話者主義の影響
-沖縄県出身英語教育実践者のライフストーリー研究」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学 公開日: 2024-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 比嘉, 麻莉奈 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002020386

様式第13号

琉球大学大学院
人文社会科学研究所委員会 殿

博士論文審査委員会

主査 石原 昌英

副査 喜納 育江

副査 宮平 勝行



学位（博士）論文審査の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、学位論文の審査を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学籍番号	学生氏名	比嘉 麻莉奈	
人文社会科学研究所 比較地域文化専攻	主指導教員	石原 昌英	
	副指導教員	喜納 育江 宮平 勝行	
成績評価	学位論文	合格	不合格
論文題目	「沖縄の大学英語教育における英語母語話者主義の影響—沖縄県出身英語教育実践者のライフストーリー研究」		
審査要旨	<p>本博士論文は、沖縄県にある大学に勤める沖縄出身の英語教員5名を対象に実施した英語帝国主義・英語母語話者主義に関するインタビュー調査のデータをSCAT (Steps for Coding and Theorization) を用いて分析したものである。第1章で研究の目的や意義について述べ、第2章及び第3章で、分析の背景として、外国語としての英語の教育に見られる英語帝国主義・英語母語話者主義について先行研究（英語・日本語）を分析し、その弊害について論じている。また、第3章では米国統治下の沖縄における英語教育と英語の地位についても分析している。この部分が第4章の研究協力者のライフストーリーの分析に繋がっている。第4章では、5名の沖縄出身大学英語教員の英語及びアメリカ文化への「憧れ」の形成、米国留学と言語意識・文化意識の変容、沖縄アイデンティティへの気づき、帰国後に職を得た大学における英語教育についての語りが分析されている。本章で注目すべきは、民族的多様性に富み、さまざまな英語が飛び交うハワイの言語文化を経験した研究協力者が英語帝国主義や英語母語話者主義を批判的に観察し、沖縄県の大学で英語を教えることの目的やその意義を考え、そこから導き出される言語意識に基づいて英語教育を実践するようになっていることである。一方で、英語帝国主義・英語母語話者主義には与みしないが、担当する科目の特質から「標準的な（正しい）英語」を教えている教員の葛藤も注目される。</p> <p>本博士論文は、「問題意識の明確性」「論証過程の説得性」「研究成果の独創性」「表現・引用の適切性」の評価基準をすべてクリアしていると評価できるので、学位論文審査会は、本博士論文が博士の学位論文に値すると判断する。</p>		

様式第14号

琉球大学大学院
人文社会科学研究所委員会 殿

博士論文審査委員会

主査 石原 昌英

副査 喜納 育江

副査 宮平 勝行



最終試験の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、最終試験を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	学生氏名	比嘉 麻莉奈	
人文社会科学研究所	比較地域文化専攻	主指導教員	石原 昌英
		副指導教員	喜納 育江 宮平 勝行
成績評価	最終試験	合格	不合格
結果要旨	<p>副査喜納育江教授の総括のもとで、申請のあった博士論文の内容とそれに関連する授業科目について口頭による最終試験を行った。本論文題目は、「沖縄の大学英語教育における英語母語話者主義の影響—沖縄県出身英語教育実践者のライフストーリー研究」である。以下の三点を軸に試験を行った。まず、口頭試問での関連質問を行い、本論文が学位の水準に達しているか審査した。次に、本論文に関連する基礎的な専門知識や自らの論文の研究上の位置づけを問い、研究上の貢献について質問した。そして、本論文で取り上げた研究分野に係る授業科目（「言語政策特論」「言語政策演習」など）の視点から、学位に相応しい研究能力とその学識を有しているか審査した。以上の点から、本審査委員会は、本論文に加え、その分野における学位の水準に達していると認め、最終試験を合格と判断した。</p>		